

第 2 回都市づくり調査特別委員会での主な意見

□日 時 平成 27 年 10 月 19 日（月） 9:30～11:30

□場 所 都庁第一本庁舎 42 階 特別会議室 A

■プレゼンテーション

＜河島委員（プレゼンテーション）＞

- ・ 東京は、文化施設や文化産業が集積しているものの、文化力は弱い。関心は高いが、生活に根差していないためと考える。
- ・ 文化だけでまちの再生ができるわけではないが、スペインのビルバオなど、まちの規模によっては、経済再生、都市再生の核にしている場合もある。
- ・ 魅力的なまちづくりには、芸術文化が必要になる。文化は経済のお荷物ではなく、経済活性化の源泉になっていく。
- ・ 一流の施設をたくさんつくるという話ではなく、日常に根差した文化の支援や、文化に触れあう場の提供、地域コミュニティの文化活動の支援が求められている。

＜藤沢委員（プレゼンテーション）＞

- ・ 20 世紀は、技術が進化した人間が人間の精神の進化が追い付かず、環境問題や資源の枯渇などが発生した。人間の精神の進化がなければ、社会の安定と発展は生まれてこない。東京をヒトとモノが対流する都市とし、精神の進化を促すことが必要。
- ・ 東京を様々な挑戦や体験ができる場所とするためには、住環境、医療、教育など、滞在するために必要なインフラが重要であり、既存のものを最大限活用することが必要である。
- ・ 金融ゾーンやバイオゾーンといった縦割りから、金融と技術開発と新しいライフスタイルを一緒に進めるようなプロジェクト型のゾーンに転換し、全員参加であらゆる課題を同時に解決する発想が必要。

＜専門委員のプレゼンテーションに関する意見交換＞

- ・ 文化の楽しみ方を伝えることのできるコーディネーターやファシリテーターが、様々な文化活動の拠点にいることが望ましい。
- ・ 江戸時代には園芸文化が広く浸透していた。文化、市民の生活、まちの緑の美しさがリンクしており、世界の都市と比較しても絶賛されていた。当時のように、文化とリンクしたまちづくりを検討していきたい。

- ・ インバウンド政策が進むことで、いつでもカジュアルに楽しめる文化への潜在需要が出てくるであろう。他方で、こうした文化の担い手の育成や、制作費を回収できる環境の不在が懸念される。
- ・ IT はどのように発展するかわからない。まずやってみて、改善していくことが必要であるため、ルールも作りながら変えていく必要がある。ルールが厳しいと、日本ではなくルールのゆるいところで開発が進むことになる。

<岸井委員長（プレゼンテーション）>

- ・ 2040年代の東京が目指すものは、国際競争力と安全安心を実現した「戦える都市圏」と、高齢社会や環境を重視した「魅了する都市圏」である。
- ・ 環状メガロポリス構造の実現に向けて三環状道路が整備された。今後の広域都市構造のイメージとしては、道路だけではなく鉄道も軸とする。
- ・ 都市構造の考え方として、都心を環7まで広げるとともに、中枢ともいえる大丸有や新宿などの活力拠点は、常に変化し続けられるようにする必要がある。
- ・ それぞれの地域は、地域包括ケアユニットとなる中学校区、身近な生活の中心となる拠点、様々な生活サービスと就業の場となる地域の拠点から構成され、1つの地域ですべての機能を確保することが難しいことから、それらが連携して機能を提供することが考えられる。

■意見交換

<検討の進め方>

- ・ これからの都市づくりは、土地利用についても考えていく必要があるが、ヒトとモノの対流、イノベーションといった今後想定される動きを取り入れられるよう、プロジェクト型にしていくことが重要である。目指す都市づくり像の整理も、プロジェクトが様々な形で立ち上がるような表現で行うとよい。
- ・ 縦割り横断的に議論をしていくのは非常に難しい。縦割りの議論は簡単であろうが、その後のストーリーを横に広げていくことを念頭に置かなければならない。
- ・ 都市づくりのテーマは複数重なって展開するであろうから、各地域において複数のテーマが実現することを想定しながら、議論を進めるべきである。
- ・ 今回のビジョンの最終のアウトプットはどのような形になるのか。委員のアイデアをどこまで具体的に、どのような形に組み入れられるのかについてご意見をいただけると、この委員会でも非常に参考になると思われる。

<価値観の変化>

- ・ 目指すべき都市像は、これまでの延長線上でありながらも、新しいベクトルを相当に強く打ち出していく必要がある。40年後を描くときの新しい価値観として打ち出すべきものについて、議論を深めていくべきである。
- ・ 新しさを盛り込むことも重要であるが、一方では水と緑などの守らなければならない部分や、鉄道など25年後も変わらないインフラもある。これらの重要性にも考慮したうえで、都市において守るべきものを議論すべきではないか。

<都市構造>

- ・ 日常に根差した文化を体験する、ヒトとモノの対流を考えていくうえでは、時間的な余裕が必要である。現在の都市生活で時間の余裕をつくるために、どのような働きかけができるかを考えていきたい。東京の交通インフラは現状世界一でありこれ以上の改善は難しく、ある程度の多核構造をもつ都市づくりを検討する必要がある。
- ・ 文化芸術を都市づくりに取り入れていく際には、ハードの整備のみにとどめてはいけない。エリアの価値を高めつつその地域の文化芸術を高め、相乗効果を上げていく方策が重要である。
- ・ 地域別の議論では、地域の課題をプラスに活かすといった観点で地域の分析を行うと、新しい発想が出るのではないか。

<都市基盤>

- ・ オリンピック・パラリンピックの開催都市であるのだから、スポーツに関する事項や、整備を進めている関連施設の使い方も、盛り込むべきではないか。
- ・ 東京の魅力を発信することで、定住・移住はしない短期滞在者の増加も想定される。短期滞在者との対流や交流に対応したインフラを整備するといった観点も必要ではないか。